



住み手になりきって 考える

清水大輔

ゆう建築設計の建築家

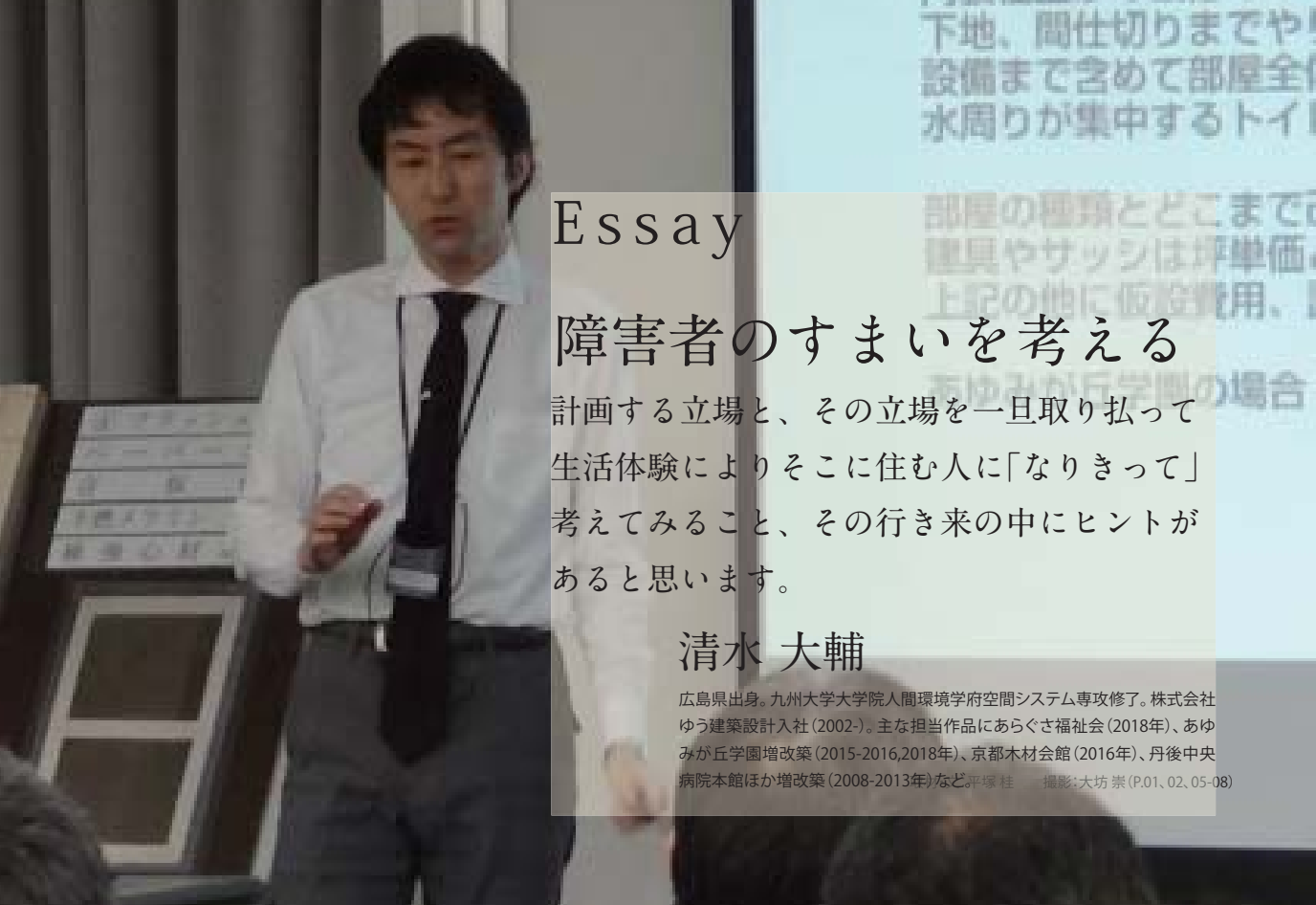


時空読本



身体をつかって 建築を考える。

知的障害の入所施設の計画で、支援員の方と一緒に建具の吊り金物を選んで、メーカーのショールームでも動作を確かめてつくったのにたくさん壊れるという経験をしました。建物の中でも動く部分は壊れやすいですが、壊れ方にも特性があり、そのポイントを把握して改良を加えていくことで壊れにくく使いやすい建具はつくれます。建具は一例ですが、建物が本当に使いやすいものかどうかは頭ではなく身体で納得するものとだと思うので、自分の感覚で確かめたことを相手に伝え共に作り上げていくことが大切だと思います。



Essay

障害者のすまいを考える

計画する立場と、その立場を一旦取り払って生活体験によりそこに住む人に「なりきって」考えてみることで、その行き来の中にヒントがあると思います。

清水 大輔

広島県出身。九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻修了。株式会社ゆう建築設計入社（2002-）。主な担当作品にあらぐさ福祉会（2018年）、あゆみが丘学園増改築（2015-2016, 2018年）、京都木材会館（2016年）、丹後中央病院本館ほか増改築（2008-2013年）など。平塚 桂 撮影：大坊 崇（P.01、02、05-08）

その人が生きていく上での障害を取り除くために建築で何ができるか？

障害を持つ方々が利用される施設を計画する際には、泊まり込みによる生活体験か、生活される様子を傍から見せてもらう見守り調査を行います。

計画する立場だと予算や全体の配置計画や法規的なことも気になったりしますが、そこに暮らす一人になった時は自分の部屋が静かであるかどうかや、日々の生活の場から外の動きが見えるかどうか、身体障害の方にとっては介助の手を借りずにトイレの一連の動作ができるかどうか？内装や設備の性能も大切ですが、そこに暮らす人ひとりひとりが本当にそこで一日の生活を組み立てられるかを考えたとき、あれその人が本当に使えるものであるかどうか、その一点においてのみ評価されるという厳しさがあります。私自身は音に敏感で、眠る時は静かな環境でないといけないということがあります。それは、数値化してこの騒音

値以下だから大丈夫ですねと言われるまでもダメで、

そういう感覚を逆なでされない、慎重に配慮された環境が積み重なっていくことで誰にとっても居心地のよい空間が出来上がっていくのだろーうと思います。

自分だったらこう過ごしたい、暮らしたい、こういう風に使いたいという設計者や仕事という立場を一旦取り払って感じることで、

そこに色があつたら楽しいのか、建具は木製がいいのか鉄製がいいのか、目立つ方がいいのか存在が隠れた方がいいのか

生活体験の中でそこで暮らす人に一瞬でも「なりきる」中で感じたことをベースに計画の優先順位や配慮が必要な程度を判断していくことが大切だと感じています。

そこからそこで暮らす人、支援する人、計画する人、つくる人に戻った時に見えてくる落としどころを行ったり来たりしながら関わっていくことが大切だと考えます。

- 障害者施設の実績 -

[使いはじめてからも変化し続ける前提の空間]

あゆみが丘学園本館大規模増改築・多目的ホール増築



a 鳥瞰。道路に面して屋根勾配を変えて分節した居住棟と中庭にデイルーム棟を増築。**b** 居住棟談話コーナー。支援室に近く見守り重視のゾーン。**c** 中庭に増築したデイルーム。食事の前後を過ごす場所としても利用。**d** 大浴槽を縮小し、リフト浴を増設。掃除しやすい仕上げに一新。**e** 駐車場に面してサッシを全開放して一体化して使える多目的ホールを整備。積雪地域のため既存棟とは屋内廊下で接続。●所在地／京都府京丹後市●用途／障害者入所施設●構造／鉄筋コンクリート造一部鉄骨造●規模／地上2階●敷地面積／8,960㎡●建築面積／2,159㎡●延床面積／2,853㎡●竣工／2015年9月

住み慣れた地域で入所施設のまま終の住処として大規模増改築

あゆみが丘学園は計画当時三十年が経過し、旧基準の四人居屋が残っていたり個室がないなどの理由により当初全面建て替えから検討をスタートしました。

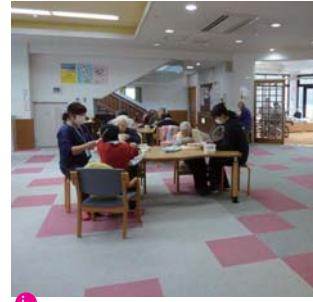
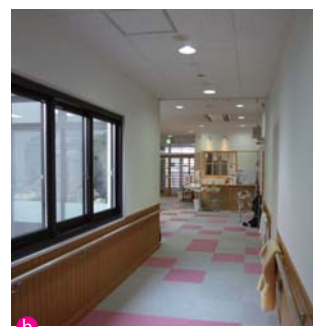
建て替え用地の確保が難しく、予算の確保も難航する中で既存を活かしつつ効果的な増築を行うことで四人居屋を解消し個室も三十室程度確保できる見通しが立ち当初の約半分の費用で大規模増改築を実現しました。三十年間開設当初のレイアウトのままだったことから泊まり込み調査や支援内容の細かい聞き取りを経て夜間の支援動線や食事前後の動線の改善、日中の居場所の充実を行った他、トイレ・浴室周りの内装一新と高齢化対応、サッシや空調の追加更新による居住環境の改善、内外装を現在に合った住まいとして一新すること地域の中で存在感を放ちつつ、利用者、支援するスタッフも新たな気持ちで生活に向かえるような場所づくりを目指しました。



f 平面図兼配置図。高低差のある敷地の空いている場所に建物を挿入し、現在の支援の仕方に合うように部屋の配置を見直して利用者、支援員双方の動線を改善。背後の斜面は計画中にレッド、イエローゾーンに指定されたため待ち受け擁壁を築造。

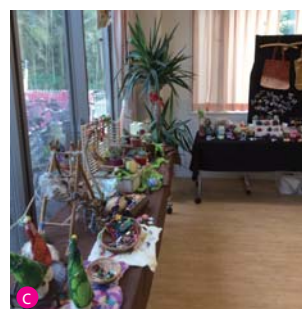
[建物の中に空間を発見する]

あゆみが丘学園 高齢者棟ブナの木寮改修



g 配膳、食事時しか使われていなかった見晴らしのよい食堂を配膳室を拡張整備することで食堂・ダイニングとして開放。増築をせずに日中の居場所が広がり、回遊性ができた。**h** 通行量の少なかった通路の一角に支援室とつながり見守り兼喫茶カウンターとしても使えるコーナーを新設。**i** 中庭に面したダイニングを車いす、支援動線を考慮した食堂・ダイニングに改修。●所在地／●用途／障害者入所施設●構造／RC造●規模／地上2階●敷地面積／1,205㎡●建築面積／638㎡●延床面積／757㎡●竣工／2018年12月

[重症心身障害の方が地域で暮らし続けるための日中活動の場] あらぐさ福祉会



a 活動スペース。建物の中央にあり、リクライニング車いすの利用者の創作活動、食事の場として活用されている。照明は、間接照明を採用。**b** 道路側に面した入口ホール、地域交流スペースは地域との接点としてさをり織展示などに活用されている。**c** 毎年開催されているあらぐさひろばでの展示販売風景。●所在地／京都府長岡京市●用途／生活介護事業所●構造／鉄骨造●規模／地上1階●敷地面積／2,486㎡●建築面積／253㎡●延床面積／272㎡●竣工／2017年3月

- その他の実績 -

[街の中の耐火木造建築] 京都木材会館



d 道路に面して杉の無垢材を使ったルーバーと北山丸太が特徴的な外観。●所在地／京都府京都市●用途／事務所・店舗・共同住宅●構造／木造(耐火)●規模／地上4階●敷地面積／449㎡

[7年に渡る建替え計画] 丹後中央病院



e 本館外観。病棟各階に道路に面して水平避難が可能な広めのバルコニーを整備●所在地／京都府京丹後市●用途／病院●構造／鉄骨鉄筋コンクリート造ほか●規模／地下1階地上5階●敷地面積／13,547㎡●建築面積／7,071㎡●延床面積／21,361㎡●竣工／2013年9月

医療福祉施設のプロフェッショナルが 利用者の思いを具現化する。

ゆう建築設計は医療福祉の分野で、建物を利用する利用者や介護・支援・看護をする人たちに役立つ工夫を行い、医療福祉分野が持つ社会的役割に寄与することを会社が存在する意味としています。

ゆう建築設計として医療福祉の分野で独自の多くのノウハウを開発し、それらのノウハウは積極的に開示しています。特に建築からあまり検討が進んでいない分野について取り組んでいます。医療分野では「透析」「精神科」「中規模病院」福祉分野では「障害者」「高齢者」です。

建築から役立つことは、建物を建てるのが前提となります。依頼をいただいた各案件にはゆう建築設計の建築家が担当者となります。ゆう建築設計が持つ深いノウハウは担当者に共有されていますが、建物を具体的に決めるのは各担当建築家の役割となります。

そのためゆう建築設計の各建築家はそれぞれの建築に立ち向かう思い、建築の技術などを各自が高いレベルに保ち続ける強い思いを持っています。形への感性は皆違います。ゆう設計の建築家は利用者の思い、建築への思いをそれぞれの感性の中で実際に建つ建物に具体化していきます。

この時空読本ではそのような建築家の一人を紹介します。

株式会社ゆう建築設計 代表取締役 砂山憲一

<http://www.eusekkei.co.jp/>



■京都本社

京都府京都市中京区
四坊堀川町 617

TEL : 075-801-0022

FAX : 075-801-8290

■東京事務所

東京都港区新橋 5-15-5
交通ビル 5F

TEL : 03-6721-5430

FAX : 03-6721-5431

■大阪事務所

大阪市中央区道修町 3-2-5
日本バルク薬品第2ビル 3F-D

TEL : 06-6232-1533

FAX : 06-6232-1536



京都木材会館 共同住宅4階住戸 床は桧無垢材のフローリング、建具枠は杉の無垢材を使用。腰貼の和紙クロスは部屋ごとに色を変えている。



丹後中央病院 本館地下1階診察待合 天井、壁、床の色を診察科目のゾーンごとに変えて分かりやすくしている



あゆみが丘学園 食堂に近い中庭にデイルームを増築して日中の居場所をつくり、支援動線も短縮。カラフルな小上がり畳は可動で自由にレイアウトが可能。



丹後中央病院 リハビリ棟

時空読本 ゆう建築設計の建築家

すまい手になりきって考える

著 者：清水大輔

発行日：2020年1月

発行人：砂山憲一

発行所：株式会社「ゆう建築設計

〒604-8254

京都市中京区堀川通錦小路上ル

四坊堀川町 617 番地

TEL 075-801-0022

編集・デザイン：ゆう建築設計